

徳島県における気候変動対策の 新たな施策展開について



徳島県 県民環境部 環境首都課

気候変動対策担当

背景

■ 地球環境の異変

- ・世界の年平均気温は**2年連続で過去最高を更新**
- ・全大気月平均CO₂濃度が400ppm超過

■ 国際社会の動向

- ・2015年「COP21」でパリ協定の採択
「今世紀後半には温室効果ガスの排出を実質ゼロに」
→**来月11月4日に発効**

■ 日本国内の動向

- ・温室効果ガス排出量の削減目標
「2030年度に2013年度比で▲26%」（約束草案）
- ・**「地球温暖化対策計画」策定**

「気候変動問題」は、待ったなし！

徳島県取り組み

1999年 「徳島県環境基本条例」制定

2004年 「徳島県環境基本計画」「環境首都とくしま憲章」策定

2005年 「とくしま地球環境ビジョン」策定

2008年 「徳島県地球温暖化対策推進条例」制定

2011年 「徳島県地球温暖化対策推進計画」策定

2013年 「第2次徳島県環境基本計画」策定

2015年 「環境首都とくしま未来創造憲章」策定

同 年 「徳島県水素グリッド構想」策定

同 年 「自然エネルギー立県とくしま推進戦略」策定

2016年 「環境首都課気候変動対策担当」設置

“脱炭素社会元年”

気候変動対策の「3本の矢」

【1】徳島県脱炭素社会の実現に向けた気候変動対策推進条例

- ・ 平成28年9月議会提案

緩和策

(温室効果ガスの排出抑制等)

両輪

適応策

(気候変動の影響に適切に対応)

【2】徳島県地球温暖化対策推進計画

- ・ 新たな削減目標の設定
- ・ 平成28年中に設定予定

【3】徳島県気候変動適応戦略(仮称)

- ・ 平成28年秋策定予定

【1】脱炭素社会の実現に向けた気候変動対策推進条例

～ 低炭素社会から「脱炭素社会」へ、新たな羅針盤 ～

新条例のポイント

- 「脱炭素社会」「気候変動」を条例に規定
- 脱炭素社会の実現に向け、
「緩和策」と「適応策」を両輪とした気候変動対策の展開
- 「自然エネルギー」「水素エネルギー」の最大限導入
- 未来を守る「適応策」の本格導入

水素エネルギーを
条例に規定

FCVの普及拡大



適応策の基本方針を
条例に位置づけ

【1】脱炭素社会の実現に向けた気候変動対策推進条例

条例の構成

第1章 総 則

第2章 気候変動対策に関する基本方針等

第3章 気候変動の緩和に係る対策

1 県民生活に係る対策

2 再生可能エネルギー等に係る対策

3 森林等による吸収作用の保全等に係る対策

4 フロン類の排出の抑制等に係る対策

第4章 気候変動への適応に係る対策

1 気候変動への適応に関する基本的施策

2 県民等の理解の促進等及び調査研究

第5章 環境教育等の推進

第6章 先導的な技術の活用及び先駆的な取組の実施等

第7章 雑則

第8章 罰則

【1】脱炭素社会の実現に向けた気候変動対策推進条例

～ 低炭素社会から「脱炭素社会」へ、新たな羅針盤 ～

新条例の基本方針

- 「**県民総活躍**」による普及啓発
→ 県民、事業者が主役となる「**県民総活躍**」により、
県を挙げて、脱炭素社会の実現に向けた**社会的気運の醸成**
- 本県の**地域資源を最大限活用し、地域課題の解決に貢献**
→ 自然エネルギーや森林資源など、本県ならではの多様な地域資源
を積極的に活用するとともに、対策を通じ、地域課題の解決に貢献
- あらゆる政策へ**気候変動の視点**を組み込み
→ 気候変動の影響を受ける施策及び影響を及ぼす施策について、
緩和及び適応について配慮

【1】脱炭素社会の実現に向けた気候変動対策推進条例

～ 低炭素社会から「脱炭素社会」へ、新たな羅針盤 ～

社会的気運の醸成

- 「カーボンオフセット」、「エシカル消費」の日常化
- 幼少期から体系的に環境学習を実施
- 人材の育成と活動・交流の機会創出
- 脱炭素型ロールモデルの情報発信・普及浸透
- 「徳島県地球環境を守る日」の創設



【2】徳島県地球温暖化対策推進計画

～ 温室効果ガスの「新たな削減目標」の設定と施策展開 ～

新・削減目標のポイント

新条例を具現化

■ Challenge 意欲的な削減目標へ挑戦

- ・ 国の削減目標に徳島の「削減努力」を上乗せ
- ・ 電力の排出係数に左右されない「エネルギー消費量の削減目標」の設定

■ Support 脱炭素型ライフスタイル・最新技術の導入を支援

- ・ 県民の省エネ活動に対してインセンティブの付与
- ・ 水素、再生可能エネルギーの最大限導入
- ・ 自然生態系の積極活用

【2】徳島県地球温暖化対策推進計画

～ 温室効果ガスの「新たな削減目標」の設定と施策展開 ～

■ 2030年度削減目標

国	
2013年度比	▲26.0%
〔排出抑制〕	約▲23.4%
〔吸収量〕	約▲2.6%

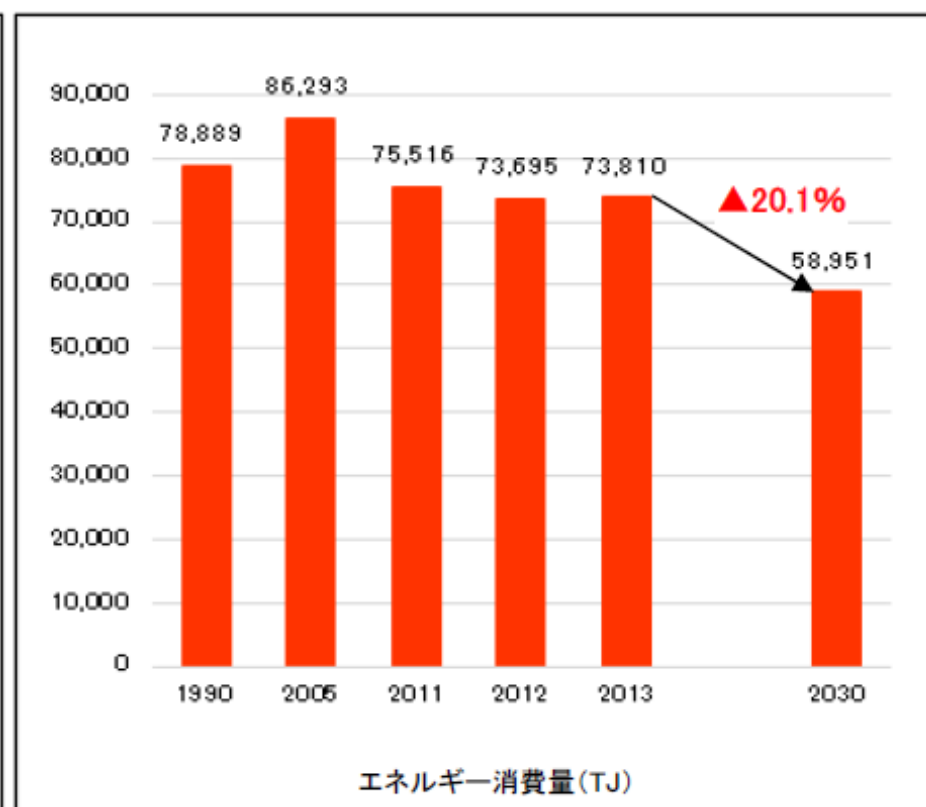
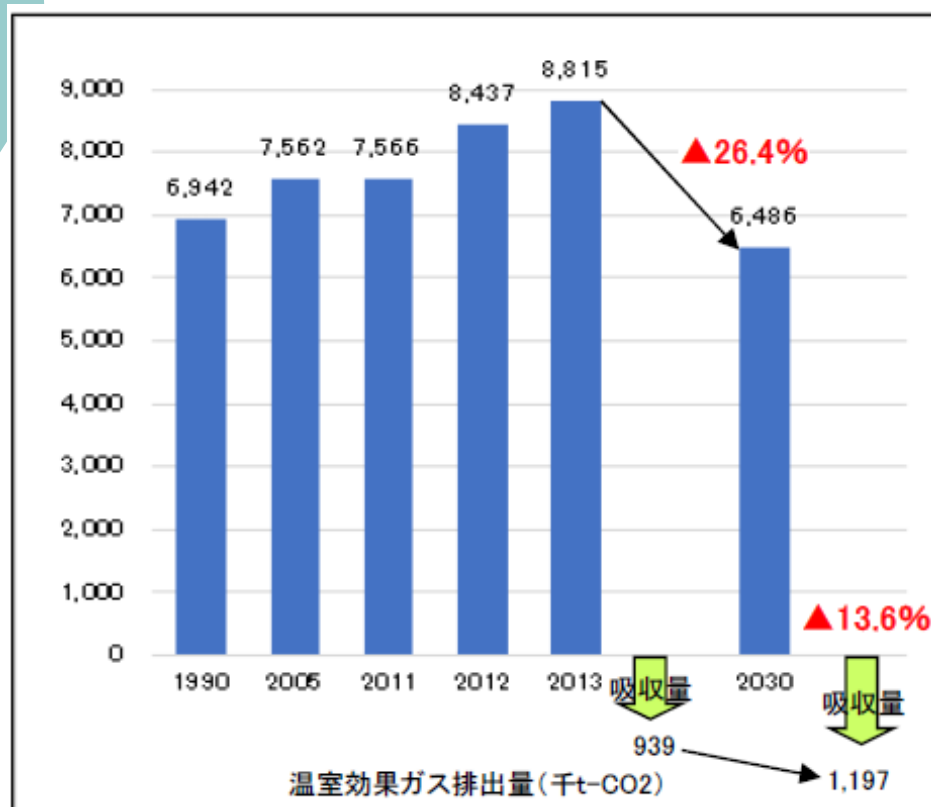
徳島県	
2013年度比	▲40.0%
〔排出抑制〕	約▲26.4%
〔吸収量〕	約▲13.6%

- ※ 「民生部門」の対策強化を中心に、踏み込んだ対策について
本県の「削減努力」分として上乗せし、設定
- ・家庭、事業所における省エネ行動の推進
 - ・住宅、建築物の省エネ対策の促進
 - ・太陽光発電の導入促進 等

【2】徳島県地球温暖化対策推進計画

～ 温室効果ガスの「新たな削減目標」の設定と施策展開 ～

■ 現状及び削減目標



【2】徳島県地球温暖化対策推進計画

～ 温室効果ガスの「新たな削減目標」の設定と施策展開 ～

対策の方向性

- 県民総ぐるみで意欲的な削減目標に挑戦するため、脱炭素型ライフスタイルや最新技術の導入の支援を実施
- 環境保全と経済成長の両立を図り、持続可能な社会の実現を目指す

対策の視点

- **県民総活躍**で温室効果ガス削減に取り組み
- 本県の**地域資源を最大限活用**
- 様々な分野の**政策の総動員**



【2】徳島県地球温暖化対策推進計画

～ 温室効果ガスの「新たな削減目標」の設定と施策展開 ～

■ 具体的な対策

＜未来を守る！緩和策＞

県民生活に係る対策

- 脱炭素型のライフ(ビジネス)スタイルへ転換
 - ・**エシカル消費**など新たな価値観の共有による「**意識の変革**」等

再生可能エネルギー等に係る対策

- 水素・再生可能エネルギーの最大限導入
 - ・**水素グリッド構想**の実現
 - ・自然エネルギーの導入加速 等

吸収源に係る対策

- 本県の豊かな自然生態系の積極活用

フロン類・廃棄物の排出の抑制等に係る対策

- フロン類の排出抑制・3Rの取組拡大
 - ・**食品ロス削減**に向けた取組の加速 等

＜未来を創る！協働策＞

環境教育・環境学習の推進

- 未来を担う世代へ、新たな環境学習の展開
 - ・幼少期から高齢期まで**環境教育の体系化** 等

先導的な取組みの支援等

- 地域の知恵を活かしたイノベーション創出、発信
 - ・県民、事業者の削減努力を「見える化」し、表彰
 - ・環境研究所(とくしまエコラボ)の開設 等

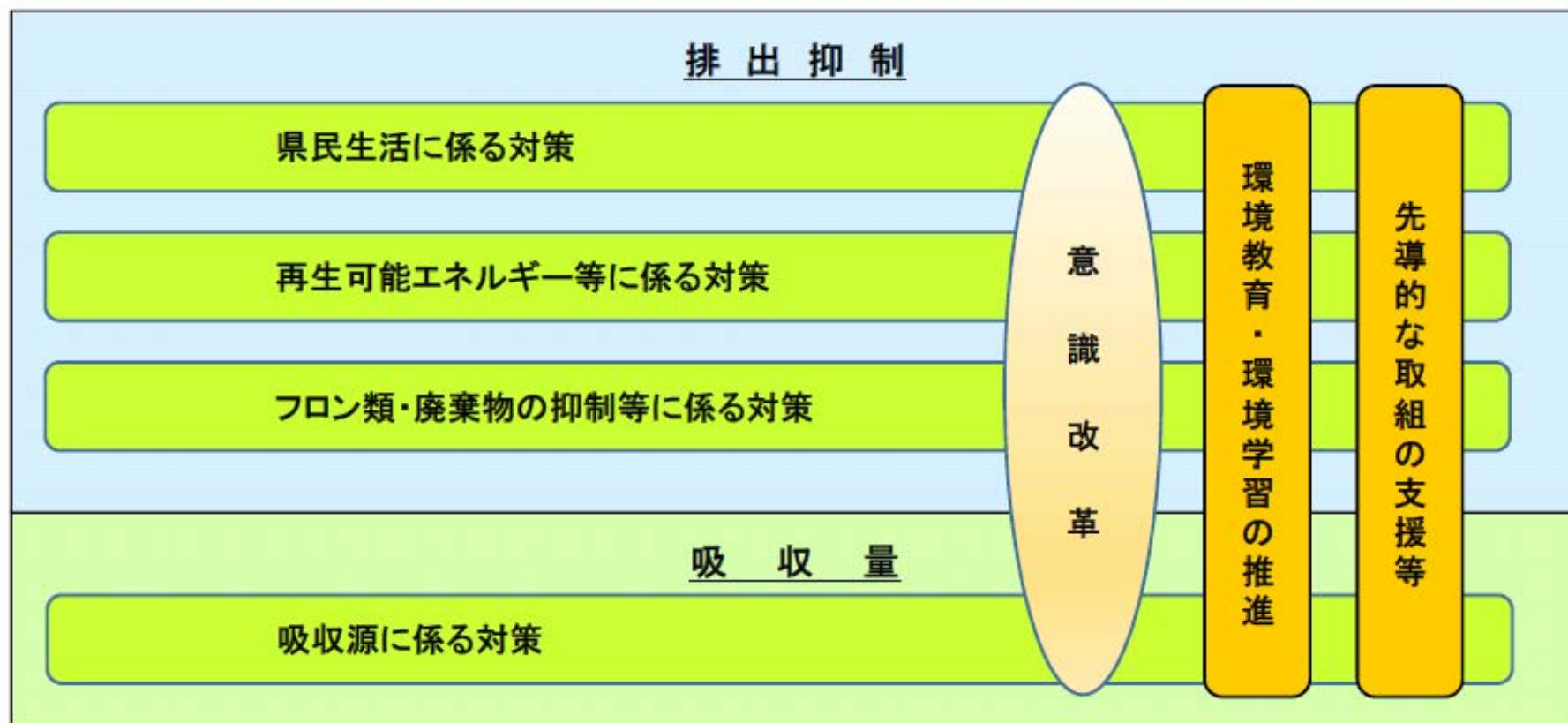


幼少期の環境教育

【2】徳島県地球温暖化対策推進計画

～ 温室効果ガスの「新たな削減目標」の設定と施策展開 ～

■ 対策との相関関係



【2】徳島県地球温暖化対策推進計画

～ 温室効果ガスの「新たな削減目標」の設定と施策展開 ～

目指すべき姿

「自然の恵みを循環させるスマートな社会」の実現



計画の推進

- 最新の知見や科学技術の進展により必要に応じて
新たな対策を追加
- **5年毎に削減目標の見直しを実施**
- 庁内においては、「環境対策推進本部」を通じ、情報共有、
情報交換など部局横断的に連携し、施策を実施
- 環境審議会において**点検・評価を受け、結果を公表**

【3】徳島県気候変動適応戦略（仮称）

～ 気候変動を迎え撃つ、強靱でしなやかなとくしまづくり ～

「適応策」の必要性

- 将来、最も厳しい削減シナリオをとったとしても気候変動のリスクは避けられない。
- 気候変動の影響は、地域特性により異なる。



戦略の方向性

- **地域特性に応じたリスクを低減**し、安全安心の社会づくり
- **影響のプラス面を効果的に活用**し、地方創生につながる地域づくり

【3】徳島県気候変動適応戦略（仮称）

～ 気候変動を迎え撃つ、強靱でしなやかなとくしまづくり ～

基本的視点

■ 「適応策」の主流化

→ 施策立案時における「適応策」の組み込み

■ 気候変動の進行に応じた柔軟な対応

→ 影響に関する情報の集約と共有

■ 「適応策」に対する理解の促進

→ 県民目線での普及啓発・環境教育の推進

■ 「現場感覚」に即した「適応」の推進

→ 気候変動対策を推進する人材の育成



【3】徳島県気候変動適応戦略（仮称）

対象分野等

分 野	主 な 項 目
県土保全	河川、沿岸、山地・森林・農村、インフラ・ライフライン
自然生態系	陸域生態系、沿岸生態系
水環境・水資源	水環境、水資源
健 康	暑熱、感染症
産業経済	産業経済、観光、消費生活、その他県民生活に関するもの
農林水産(食料)	農業、水産業

- 気候変動の影響に関連する**本県の地域特性や現況、将来予測**について、対象分野ごとに取りまとめ
- 気候変動の影響に対する**現在の取組状況や今後の方向性、主な指標**について、対象分野ごとに取りまとめ

【3】徳島県気候変動適応戦略（仮称）

～ 気候変動を迎え撃つ、強靱でしなやかなとくしまづくり ～

■ 「気温上昇」に関連する影響例

		現状	将来予測	現在の取組み	今後の方向性
農業	水稻	・品質の低下	・収量の減収、品質の低下	・高温耐性品種の導入、高温対応の栽培管理	●安定的な生産・供給体制の確立 ・高温対応の栽培管理
				・収益性の高い高温適応作物への転換（高温耐性品種あきさかり）	●新たなブランドの創出 ・高温耐性品種「あきさかり」のブランド化
	果樹	・ブドウの着色不良、温州みかんの浮皮等の品質低下	・温州みかんの栽培適地北上、ブドウの生育障害発生	・高温耐性品種の導入、高温対応の栽培管理 ・果樹の着色向上技術の実証実験	●安定的な生産・供給体制の確立 ・高温対応の栽培管理
		・ハウス栽培における暖房コストの低減		・果樹の樹上完熟技術の開発	●新たなブランドの創出 ・価値の高い南方系果樹の導入実証

ご清聴いただき、ありがとうございました。

